

## 振り返ったらだれかが

定年まで仕事をして  
狭いながらも我が家を持って  
女房と一緒に  
人生を歩んできた

一番辛かったのは  
女房が妊娠して流産した時  
喜びが一挙に悲しみに変わり  
穴から抜け出すのに  
何年もかかった

女房が死んだ後  
再び穴に落ち込んだ  
毎晩、何本かのビールを飲み干し  
ぼんやりテレビをつけたまま  
うとうとする  
いつのまにか時間が過ぎる

酔いが覚めて  
布団に入る  
きょうもよみがえる  
女房との出会いと別れ

眠り際に  
いたたまれず跳ね起きる  
あの時  
あんなふうにしておけば  
変えられる人生もあったろう  
心に残る思い出も違ったろう

今さら何も変えられない  
振り返ってもひとり  
声を掛ける相手もない

民生委員が訪ねてきた  
一枚のチラシを差し出す  
「安心電話」と書かれてある

暑くて寝付けない夜  
女房の顔が浮かんでくる  
何をどうすればいいのか  
迷った挙句、電話を掛けた

次から次へあふれ出す言葉  
押し込めるだけでは何も変わらない  
今度は女房にも届けたい  
今でも一番大事にしている思いを

電話相談事業研究開発委員会  
松 村 茂